

日本：祖先、伝統、思いやりと謙虚さが溶け合った国

2015年12月、日本政府は、日本国民、伝統や最新技術等を伝えることを目的として中米諸国のジャーナリスト数名を同国に招へいした。日本における数多の色彩豊かな体験を仔細に描写するのは容易ではなく、滞在中の体験を紹介するために多くの紙面が割かれることになるであろう。

日本人を描写するとすれば「粘り強く、疲れを感じることなく人類のために技術革新に取り組み、地球の環境汚染減少に向けた旗手を担う一方、祖先伝来の慣習を忘れない謙虚な人々」となるであろう。

人々は人懐っこく思いやりがあり、どんな時でも礼儀正しく寛容であるため、日本を訪問する人々はまるで自国にいる様な錯覚に陥る。日本に到着後、不安は瞬く間に取り除かれた。東京を歩いて散策することは時の経過を忘れてしまう程魅力的な冒険であった。

7日間の滞在は短く、その間、最先端技術企業やリサイクル施設の訪問、皇居を含む観光地訪問、政府及び企業関係者とのインタビュー等を行った。

- (1) 金閣寺
- (2) 宮島(厳島)
- (3) 清水寺
- (4) 浅草寺
- (5) 月桂冠の日本酒製造所

月桂冠は、1637年に設立された日本で最も重要な日本酒の製造会社である。何世紀にも亘り日本酒製造技術を精錬しており、同社の日本酒は日本のみならず欧州でも販売されている。製造設備の技術が近代化されたにも拘わらず、その伝統的な製法が維持されている。

(6) 茶道

日本の茶道は、静寂に包まれた狭いスペースにおいて少人数の中執り行われ、どこか厳かな雰囲気をつたえている。作法を学んだ女性達が千年の歴史を有する茶道という芸術に取り組む。使用される道具は全て職人の手作りによるものである。

(7) 橋場中米カリブ課長主催昼食会(日本酒の紹介)

橋場中米カリブ課長は、日本酒を手に行の来訪を歓迎した。2015年、日本と中米は外交関係樹立80周年を祝った。

(8) 着物の織物工場

ホンゴウ ノブコ氏は、着物のための布を作っている。年を追うごとに若者達は伝統衣装を着なくなっており、着物の織物を作る人はわずかしかいない。しかし彼女は諦めることなく、小さな仕事場で機を織り続けている。友人の支援により、彼女が織る布がファッション・ショーで使われることとなり、モデル達が彼女の布で作られたアクセサリや衣装を身につけるようになった。大学で勉強するため京都に来た彼女は、機織りの魅力に触れ、より深く織物について知りたいと思うようになったと語ってくれた。彼女の師匠を含め織物を知る人は皆年配者であり、従事する人が少ないことを心配している。そして、その知識や経験を他の人々に伝えていくことが使命であると感じていると語った。